

105

contents

常設展
第61回山口県美術展覧会
年間スケジュール

天花

TENGE



香月泰男(1911-1974)「日中の道」(木版画集「夕ヒチ」より) 1973年
山口県立美術館蔵

常設展

資料展示室

「香月泰男の夏」

7/3^{tue}～8/19^{sun}

「香月泰男の動物園」

8/21^{tue}～9/30^{sun}

表紙作品解説

香月泰男(1911-1974)「日中の道」(木版画集「タヒチ」より) 1973年
木版5版5色・グワッシュ・生漉き奉書 32.2×23.5cm
山口県立美術館蔵

香月泰男(1911～1974)は夏が大好きだったといえます。それで香月泰男の夏。紹介するのは「日中の道」です。熱帯植物が涼しい樹陰をつくる屋下りの路上。ふと出会った犬に人懐かしさを感じたのでしょうか。単純な構図ですが夏のけだるさやゆっくりした時間の流れなどが伝わってくるようです。

タヒチの自然に魅了された彼は、二度もタヒチに出かけ、二度目の旅行から帰るとすぐにタヒチをテーマにした版画集の制作に着手しています。

香月の版画制作が本格化するの、亡くなる4年前の58歳のときでした。この年以降はまさに版画集のラッシュです。では、なぜ版画なのか。

シベリア画家としての彼の名が知られていくのは50歳代半ばから。その時期、より彼の知名度を高め、また高まる作品の需要に応えるのに考案されたのが版画でした。版画なら1点の原画から複数のオリジナル作品ができます。しかも絵にくらべれば廉価です。ですから、多くの人の手に行き渡ります。加えて、手がけた版画の多くは原板に筆で描くだけで済む石版画でした。これでいけば製版、印刷はタッチ不要です(ちなみに、その時期の最初のころの作品が、次回「香月泰男の動物園」で紹介する一連の作品です)。

ところが、手がけてみると面白くなったのか、「描く」だけでいい石版画から自ら「彫り」「試し刷り」にまで関わる木版画へと技法が変わっていくのです。その木版を手がけた最初の作品集が「タヒチ」でした。

彼はこれらの木版画で、インクの代わりに不透明水彩絵具(グワッシュ)を使っています。原版の上に置く絵具の量を加減することで表現に微妙な変化をつけ、複製だが「1点制作」という、版画に彼らしい技法の展開を工夫し始めようとしているのです。ところが、そんな矢先、心筋梗塞で急逝。行年62歳でした。早世した画家の生誕100年がまもなく近づいています。

(当館副館長 安井雄一郎)

ます。
民館、

ひ答等の時

ださい。

業務以外に

宏

女子美術
市現代美術
評論家連盟
歴任。現在、
理事、美術
理事。プラハ
エンナーレ
立美術館)

前氏による

み
鑑賞行

「もじーる。」

参加ワーク
○お問い合わせ
〒753-0
山口県立
tel: 08

※記入いた

さ

広く県
芸術支

山口県立山口博物館 企画展「近くて懐かしい昭和展」(7/27～8/26)関連企画

香月泰男室・小林和作室

「昭和の香り」 7/3～9/30

山口博物館での「近くて懐かしい昭和展」に関連して、昭和の風俗やまなざしを描き出した絵画を展示します。日本海側の漁村の心象を寂寥感をもって描き出した小野具定ほか澤野文臣、松田正平、福田翠光などを紹介します。会期中、一部展示替えがあります。
前期: 7/3～8/19 後期: 8/21～9/30

小野具定「鹿船」1961年
山口県立美術館蔵

郷土工芸室

「十二代三輪休雪」 7/3～9/30

毛利家御用窯を400年にわたり守り伝えた三輪家は、つねに当代の新しい表現を追求してきました。昭和40年代～50年代、愛(エロス)と死(タナトス)をテーマとした三輪龍作(十二代三輪休雪)が、その若きエネルギーを土に込めたオブジェの数々を紹介します。

三輪龍作(十二代三輪休雪)「LOVE(ハイヒール)」
1980年 山口県立美術館蔵

第二常設展示室

「昭和の写真」 7/3～29

木村伊兵衛、林忠彦、東松照明、森山大道、荒木経惟などの昭和を代表する写真家たちの、昭和20年代～50年代までの30年間に制作された作品を紹介します。

植田正治「少女たち」1945年
山口県立美術館蔵

第二企画展示室

「日本画の流れ③」 6/26～7/22

当館所蔵の日本画のなかから、江戸～明治時代の掛軸、屏風の作品を選びご紹介いたします。精緻で華麗な花鳥画を得意とした朝倉南陵、新たに流入した中国絵画に学んだ人物画を得意とした小田海僊など、幕末から明治維新时期に活躍した画家たちの多様な世界をお楽しみください。



朝倉南陵「花鳥図」山口県立美術館蔵

美術館ボランティアによる「常設展ギャラリー・トーク」

「こどものためのギャラリー・トーク みんなでみよう」
常設展「香月泰男の夏」をみていきます。
日 時: 7/21・28、8/4・11・18
いずれも土曜日 11:00～
集合場所: 常設展示室入口
参加費: 無料(大人は常設展観覧料が必要です)

「常設展ギャラリー・トーク「みる」を一緒に楽しもう!」
日 時: 毎週土曜日 13:30～
集合場所: 常設展示室入口
参加費: 無料(常設展観覧料が必要です)

第1回山口県総合芸術文化祭

第61回 山口県美術展覧会

平成19年8月23日(木)▶9月9日(日)

趣 旨

「つくる・みる・ささえる」の 創造的調和

制作の創造性を高めること（つくる）のみならず、美術作品を鑑賞すること（みる）や美術文化を支えていくこと（ささえる）もまた優れて創造的な行為であるとの意識を育成できるような、総合的な美術文化の普及と振興をはかります。



昨年度会場風景

会 場

山口県立美術館

会 期

平成19年8月23日(木)～9月9日(日)

月曜日休館

9:00～17:00(入館は16:30まで)

観 覧 料

一般250(200)円 大学生200(150)円

()内は20名以上の団体料金

70歳以上および18歳以下の方、中等教育学校、高等学校、特別支援学校に在学の方等は無料です。

主 催

山口県・山口県教育委員会

問い合わせ先

山口県美術展覧会事務局

山口県立美術館 〒753-0089 山口市龜山町3-1 tel:083-925-7788 fax:083-925-7790

e-mail:a19304@pref.yamaguchi.lg.jp

http://www.art-museum.pref.yamaguchi.lg.jp/

※郵便でお問い合わせの場合は、往復はがきをご使用になるか返信用封筒を同封してください。

第61回山口県美術展覧会運営委員(50音順)

石崎 泰之 (山口県立美術館・浦上記念館 学芸課長)
臼井裕貴子 (NPO法人こどもステーション山口 事務局長)
中野 良寿 (山口大学教育学部 准教授)
濱本 聡 (下関市立美術館 館長補佐)
堀家 敬嗣 (山口大学教育学部 准教授)
松本 弘 (山口県教育委員会 社会教育・文化財課長)
水谷由美子 (山口県立大学国際文化学部 教授)
吉野 道久 (山口県環境生活部 文化振興課長)
若林 英樹 (シンフォニア岩国 企画事業マネージャー)

つくる (作品公募部門)

自由な意識や現代社会に根ざした作品を募集し、その優秀なものを展示します。
出品にあたっての詳細は「第61回山口県美術展覧会要項」(県内各文化施設、公民館、画材店等で配布)をご覧ください。出品目録も添付しています。

審 査 会



昨年度審査風景

審査は公開します。審査会2日目の審査終了後、傍聴者による審査員への質疑応答等の時間を設けます。なお、手続きなしの傍聴はできませんのでご注意ください。

(1) 日 時 平成19年8月7日(火) 10:00～17:00
8月8日(水) 9:30～12:00

(2) 会 場 山口県立美術館

(3) 申込方法 官製はがき、ファックス、メールのいずれかでお申し込みください。
記入事項：住所・氏名・電話番号

申込締切：8月5日(日) 当日消印有効

(4) 申込・お問い合わせ 山口県立美術館 県美展事務局
〒753-0089 山口市龜山町3-1
tel:083-925-7788 fax:083-925-7790
e-mail:a19304@pref.yamaguchi.lg.jp

※記入いただいた個人情報は、第61回山口県美術展覧会審査会傍聴に関する業務以外には使用しません。

審 査 員



中村 政人

なかむらまさひと

1963年生まれ。東京藝術大学絵画科准教授。「美術と社会」「美術と教育」との関わりをテーマに様々なアート・プロジェクトを進める社会派アーティスト。日本の地域再生やアジア各国におけるプロジェクトに関わっている。



福永 治

ふくながおさむ

1955年生まれ。国立新美術館学芸課長。呉市立美術館、広島市現代美術館、東京都現代美術館の学芸員を経て現職。近現代の美術作品を通じて、社会における美術のあり方に関心を持ち美術館活動を行っている。



南 嶋 宏

みなみしまひろし

1957年生まれ。女子美術大学教授、熊本市現代美術館長。国際美術評論家連盟理事(本部/リ)を歴任。現在、全国美術館会議理事、美術評論家連盟常任理事。プラハ国際現代美術トリエンナーレ2008(プラハ国立美術館)国際キュレーター。

賞

大 賞 1名 (賞状・賞金50万円・
次回県美展での展示空間と
展示作品の制作費50万円)
優秀賞 5名 (賞状・賞金5万円)
佳作賞 (賞状)

特別展示



昨年度の大賞受賞者 手嶋大輔氏による
新作を展示します。

昨年度大賞受賞作品 手嶋大輔「ヒトリゴト2」(部分)

みる (ワークショップ部門)

鑑賞行為の創造性を体験してもらうためのワークショップを開催します。

「自作を語る」

第61回山口県美術展覧会入選者のうち希望者に展示作品について語ってもらいます。

詳細・実施日時は、展覧会開始後、山口県立美術館ホームページおよび展覧会会場入口の掲示でお知らせします。



昨年度ワークショップ風景「しろいろくろいろ」

「もじーる。」

見慣れた文字が、思いがけない形に変身。こどもから大人まで楽しめるワークショップです。

平成19年9月1日(土) 11:00~15:00

講師：倉科勇三（美術家）

会場：山口県立美術館

対象：小学生以上

定員：20名（要申込・先着順）

「あじのひらき」

見たまま描くのに、見たことがないものができるかも。肩の力を抜いて絵をつくってみませんか。

平成19年9月2日(日) 14:00~15:30

講師：倉科勇三（美術家）

会場：山口県立美術館

対象：高校生～一般

定員：20名（要申込・先着順）

「もじーる。」「あじのひらき」の参加申込方法

参加ワークショップ名、氏名、年齢、住所、電話番号を記入した往復はがき、またはe-mailでお申し込みください。

〇お問い合わせ・申込先

〒753-0089 山口市亀山町3-1

山口県立美術館「県美展ワークショップ」係

tel: 083-925-7788 e-mail: a19304@pref.yamaguchi.lg.jp

※記入いただいた個人情報、第61回山口県美術展覧会ワークショップに関する業務以外には使用しません。

むさえる (ボランティア部門)

広く県民から募集した美術館ボランティア・スタッフの県美展運営への参画により、芸術支援の活動を展開してもらいます。

第1回山口県総合芸術文化祭

HEART 2007

平成19年8月18日(土)～9月9日(日)

会場：山口県立美術館、クリエイティブ・スペース赤れんが、一の坂川周辺、山口市中心商店街

主催：ミュージアム・タウン・ヤマグチ2007実行委員会
(山口県立美術館、山口県、山口市、山口県立大学、山口商工会議所、山口商店街連合会)

一部共同主催：NPO法人こどもステーション

この夏、山口県立美術館では、第一回山口県総合芸術文化祭の一環として、美術館のある中心市街地と一体となって、新しいプロジェクトに取り組みます。

テーマは「ものづくりとコミュニケーション」。

美術館の役割をシンプルに考えていくと、やはり、作品と観客とのコミュニケーションを柱に、さまざまなコミュニケーションを生み出すことに落ち着くんじゃないだろうかと考え、こんなテーマになりました。美術館はいつも色々なコミュニケーションを、作者と観客を、素材と観客を、過去と現在を、異文化とのコミュニケーションを、そして観客同士の出会いと、未来とのコミュニケーションを、生み出しているはずなのです。

そういうわけで、美術館だけでなく、美術館のある山口の中心街を、楽しいコミュニケーションが渦巻く空間にして、都市の核である中心市街地の魅力ある街づくりに貢献しようということで、展覧会や、ミュージアムショップ、ワークショップ、上映会といったプロジェクトを、あちこちで展開します。

タイトルは、英語の発音、イントネーションで、「はー(r)ー」と読んでください。いちいちそんなことできるわけないだろうという方は、せめてイントネーションだけでも英語風に「ハート」と読んでください。じゃないと「あー」と聞こえないのです。

つまり、ハートの中にはアートが潜んでいる。街の中心にはアートが潜んで、街全体にコミュニケーションを循環させていく。アートが核心なのである……。ここにはそんな意味を込めているのです。

慣れ親しんだ日本語となったハートが、もういちど、アートによってどんな表情をつくりだすのか。そして、街や美術館もどんな姿に生まれ変わるのか。

皆さんも、是非、いつもとは違う、街をお楽しみください。

(詳しくは美術館HPをご覧ください)

河野通孝(ミュージアム・タウン・ヤマグチ2007実行委員会事務局/当館普及課長)

2007-2008

schedule

山口県立美術館 平成19年度年間スケジュール

特別展

常設展

4/10

雲谷派①

日本画の流れ

5/6

5/8

狩野芳庵

日本画の流れ

全工と宗廟親

油彩画の

はじまり

雲谷派②

5/20

5/22

5/27

6/1～6/10

日本工芸会山口支部設立50周年記念
「第30回記念伝統工芸新作展」

6/15～6/24

第46回日本現代工芸美術展

6/3

6/5

森老斎

雲谷派③

7/1

7/3

昭和の香り①

昭和の写真

6/26

日本画の流れ

(3)

7/22

7/24～7/29

第25回山口県書道連盟展

香月泰男の夏

7/29

十二代

三輪休雪

昭和の香り

6/26

日本画の流れ

(3)

7/22

8/23～9/9

山口県総合文化芸術祭

第61回山口県美術展覧会

8/19

8/21

昭和の香り②

香月泰男の

動物園

9/28～10/28

田中米吉

—“ドッキング”からの視点

9/30

10/2

雲谷派④

10/28

10/30

彫る・切る・削る 近現代の立体

雪舟

11/25

11/27

日本人の見た

ヨーロッパ

11/10～12/16

モディリアーニと
妻ジャンヌの物語展

12/24

12/26

絵付けされた

陶器

山陽小野田市・

岩崎寺の仏像

1/14

1/16

小林和作の

コレクション

松澤有

日本画の流れ

(4)

2/3

2/6～2/10

山口県立大学卒業制作展

2/14～2/17

山口芸術短期大学卒業制作展

2/21～2/24

山口大学卒業制作展

3/5～3/8

日本光画会写真展

2/17

2/19

雲谷派⑤

風景画の世界

3/9

3/11

雲谷派⑥

現代美術入門

I 一色一

2/26

日本画の流れ

(5)

4/6

Information

■休館日

月曜日(月曜が祝日もしくは振替休日の場合は翌日休館)
年末年始(12月28日～1月3日)

■開館時間

9:00～17:00(入館は16:30まで)

■料金

常設展: 一般190(160)円 学生120(100)円

()内は20名以上の団体料金

特別展: 別途に定めた料金

常設展・特別展ともに18歳以下と70歳以上および高等学校、
中等教育学校、特別支援学校に在学する方等は無料。

山口県立美術館
YAMAGUCHI PREFECTURAL
ART MUSEUM

〒753-0089

山口市亀山町3-1

TEL:083-925-7788

FAX:083-925-7790

<http://www.art-museum.pref.yamaguchi.lg.jp/>

